

H26後期学校評価の結果を振り返って

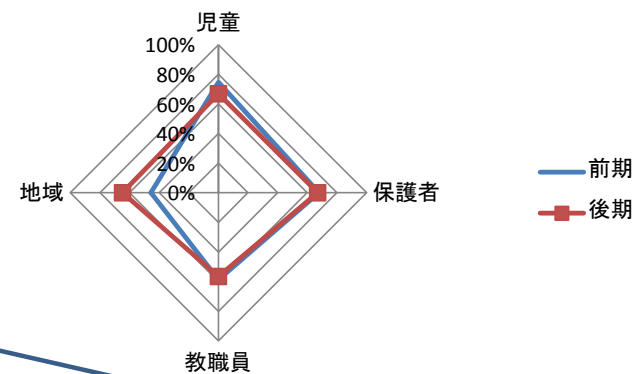
京都市立久我の杜小学校

冬休み前に実施した学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。グラフのポイントは、実現度「よくできている」「できている」を合わせたものです。

実現度について「前期」と「後期」の比較をしました。

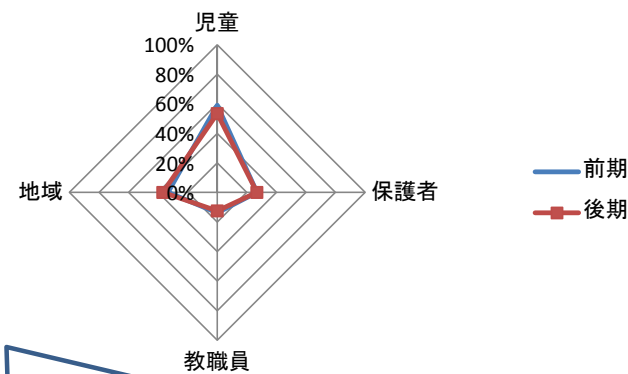
*地域の方に関しては、答えられる範囲で回答いただいたものを使用しています。

家庭学習は、毎日（学年×15分程度）できている。



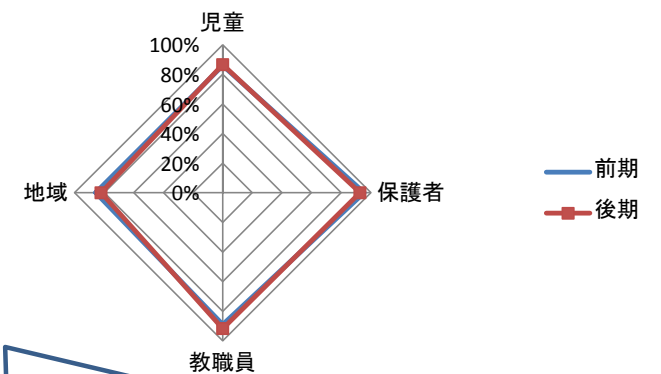
家庭学習への意識の高まりの一方で（重要度より）、児童において実現度が下がっている。指定された課題のみの家庭学習から、自分で課題を設定して取り組む「自主学習」への転換を図っており、その取り組みへの戸惑いが影響したと思われる。具体例や友だちの学習の様子を共有することでイメージモデルをつくり、見通しをもった取り組みとしたい。

授業以外で1日あたり20分程度、本を読んでいる。



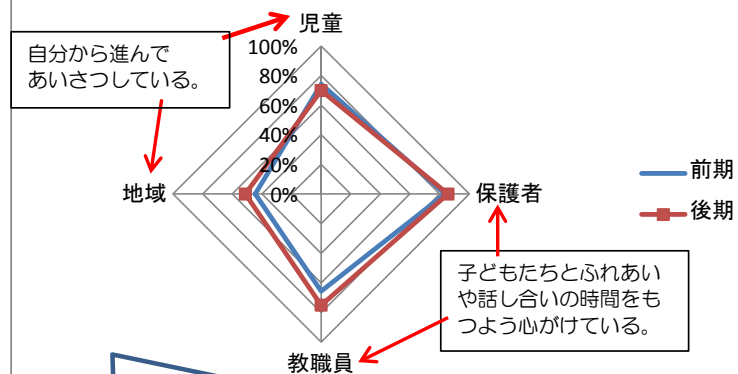
前期に続き高い重要度をしめす一方で、実現度が低い。しかし朝読書の時間をはじめ、休み時間等で「本」と接する時間をもっている児童は多い。また、図書委員会やボランティアさんの働きかけで、本を手にとることや、図書室、久我のもり図書館の利用も増えてきている。「本」は身近な存在であり、本と関わるのが一つの読書活動であるという認識を広げる必要がある。

学校に行くことがたのしい。



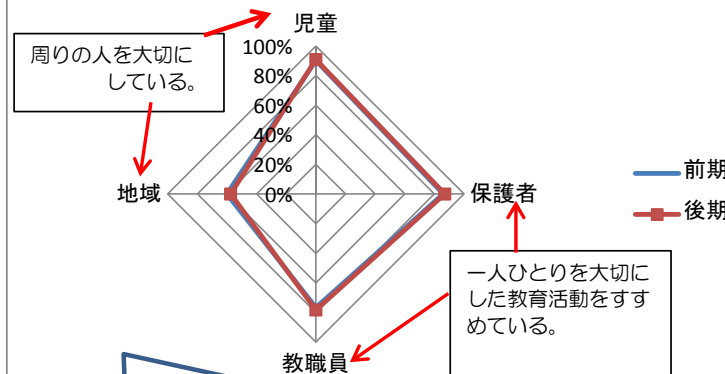
児童は概ねたのしく通っている。一方、前期より若干改善されたが「（あまり）重要ではない」と答えた児童が8%、「（あまり）できていない」と答えた児童が13%という結果を今回も重く受け止めなければならない。1%の改善で約10人変わるため、重要度・実現度合わせて約30人変わったことになり、1学級分に相当する。引き続き取り組みを進めていく。

「あいさつ」に関する質問



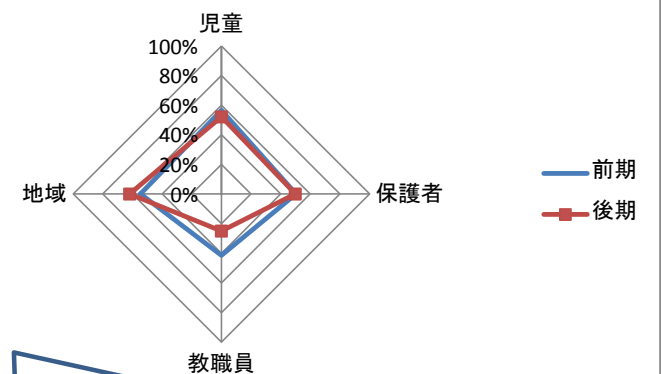
児童は若干下がったが、地域では上がっている。児童の思い描いている「自分から進んであいさつ」には十分至っていないが、「あいさつをする」という点においては評価されている。変化の芽生えができた子どもたちへ、その変化についてあたたかい言葉で高めていく必要がある。

「人を大切にすること」に関する質問



アンケートの集計では少し改善されているが、グラフで見ると前期とほぼ同様の結果となっている。重要度は人権集会への取り組みから、意識の変化は感じられるが、後期に入り「人と関わる上でのルール」に課題がでてきた。友だちとのトラブル、中でもケータイが関わるトラブル（LINE等）が増加している。

地域やPTAの行事に参加している。



餅つき大会などたくさんの参加者があり、実際に参加者が増えている行事が多くあった。その点に関しては地域の方々の実現度からうかがえる。引き続き参加を促す声かけとともに、PTA・地域などたくさんの方に見守られ、お世話になって行事ができていることを伝えていく。

重要度の集計結果から

前期よりも各項目について高い関心があるという結果ができました。重要度の結果は取り組みを進めてほしい「願い」であるとともに、学校として大切にしていること、指導に力を入れていることについて、ご理解いただいていることの指標です。これらの点について、地域・保護者の方の思いを共に子どもたちが実現していけるように指導していきたいと思います。

実現度の集計結果から

児童・保護者・教職員・地域の4者ともに前期とほぼ同様の結果でした。その中で、「早寝早起きをして朝ごはんをいつも食べている。」という質問の実現度が下がっていることが気になりました。朝食は1日のエネルギーとなることはもちろん、成長著しい子どもたちの身体のためにも改善の必要があります。

前期と後期の結果から

「重要度」は前期よりも上がり、より望ましい生活を送る姿勢への意識が高まっています。子どもたちにとって「このようにあるべき」といったモデルが設定されていると思います。一つひとつに対する目標でもあり、その達成のためにどこまで行動に移せるかが「実現度」といえます。「あいさつ」の質問項目で、子どもたちはまだ目標とする姿の実現には至っていないかもしれませんが、地域の実現度は大きく上がっています。きっと子どもたちの反応、関わり方に変化があったのでしょう。また、保護者・教職員は関わる時間が増えています。ここには必ずとあいさつや会話が存在します。よって、今子どもたちに「元気の出る声かけをする」ことが大切であると思います。